

タンザニア発祥の絵画「ティンガティンガ」を通して  
アフリカの文化を日本人たちに伝えたい。



ティンガティンガ・アーティスト

オマリ アブダラ ムワンドウアラさん

■「ティンガティンガ」とは、どんな絵ですか。

ティンガティンガは、タンザニアのエドワード サイディ ティンガティンガという人が始めたタンザニア発祥の絵画で、アフリカの動物や植物などの自然や、人々の暮らしを独特のタッチで描いています。ベニヤ板にペンキを使って描きます。

■オマリさんがティンガティンガに興味を持ったきっかけは？

私はタンザニアの山間部の出身で、学校を卒業したあと観光ガイドをしていました。そのとき、たまたまある所でティンガティンガがたくさん飾ってあるのを見て、とても惹き付けられました。自分でも描いてみたいと思ったのです。そこで2008年にアートスクールに入り、美術の基礎を勉強しました。その学校の近くで友達にティンガティンガの工房を開いていたので、そこで描き方を習いました。

普通の絵画と違ってティンガティンガは写実的な絵ではなく、自分でイメージした風景や動物を描くので、そのスタイルに慣れるまでは難しかったです。でも毎日のように友達から習ううちに、スタイルに慣れて洗練され、自分のスタイルで描けるようになりました。

■描き方にルールがあるのですか？

基本は、最初に背景を描いて、その上に動物などの絵を乗せていくということです。私の場合はまず背景を描いて、その背景を見ながら頭の中でイメージを膨らませてから動物を描き込んでいきます。背景を描いてはじめて、イメージが出来るんです。逆にイメージが出てこない、なかなか絵が描けません。だから、一番難しいのは背景を描くことかもしれません。

■なぜタンザニアでこの絵が広まったんでしょう。その魅力はどこにあると思われますか。

タンザニア発祥の芸術ということで早くから海外でも高く評価されていましたが、タンザニアの自然や人々の暮らしを伝えているところに魅力があります。例えば観光客がお土産屋さんでティンガティンガの象の絵を見ると、実物の象を見たくなる。また国立公園で実物の動物を見た後で、その記憶を留めるために思い出としてこの絵をお土産にして持って帰る。そのように、強く記憶に残る力のある絵画だと思います。

■保子さんとは、いつどこで出会われたのですか？

出会ったのは2009年です。私は観光ガイドの仕事しながら、ティンガティンガの作品づくりに取り組んでいました。そのときタンザニアを単独で旅行していた彼女と出会ったんです。その後2010年来日して家族に紹介してもらい、結婚して近江八幡市で暮らし始めました。

■現在は、どのような活動をされているのですか。

ティンガティンガの作品を制作して、地元や近辺の手作り市などで販売しています。ポストカードを買って作品を気に入ってくれた人が、オリジナルで「こんな絵を描いてほしい」とオーダーしてくれることもあります。オーダーメイドで絵を制作できるのが自分の強みだと思っています。そのほか県内の市役所や小学校などで開催される国際理解の講座の講師として、タンザニアの国や文化の紹介をしています。

■日本の子どもたちと交流して気付いたことはありますか。

小学校に行くと、とても興奮して「ハロー！ハロー！」と声を掛けてくる子どももいますが、それは単に

●プロフィール●

東アフリカのタンザニア生まれ。学校を卒業後、山岳地帯で観光ガイドをしていたとき、タンザニア発祥の絵画「ティンガティンガ」と出会い、自分でも描いてみたいとアートスクールに入学して美術の基礎を勉強。学校の近くで工房を開いていた友人に習って、ティンガティンガを描き始める。2009年に、タンザニアを旅行中だった保子さんと出会い、翌年来日して結婚。現在は近江八幡市を拠点に、ティンガティンガの制作のほか、タンザニアの暮らしや文化を伝える活動に取り組んでいる。  
<http://jamboafrika3.com/>

外国人が珍しいだけなのかもしれません。けれども、今通っている空手道場で一緒の子どもたちとは週二回出会うので、だんだん仲良くなって自然に「オマリさん、そこ間違ってるで」と教えてくれるようになりました。最初は外国人の印象がとても強かったと思いますが、何度も会ううちに自然に打ち解けることができますね。

■今後はどのように活動していきたいですか？

ティンガティンガやタンザニアの文化を紹介する展覧会を開きたいですね。もっと多くの人にタンザニアのことを知ってもらおうと、最近ホームページも開設しました。今年は横浜市で「第五回アフリカ開発会議」が開催されるので、アフリカのことが話題になると思います。これを機会にアフリカのことをもっと知ってもらい、活動を広げていきたいですね。

